



あさひふれんど千葉

【毎月1日・15日発行—朝日新聞の販売店からお届けします】

第838号

平成28年 11月15日

発行所
 (株)あさひふれんど千葉
 〒260-0045 千葉市中央区弁天1丁目2番8号大野ビル5F
 電話 043(284)0621
 FAX 043(206)9533
 Eメール asafurefure@ybb.ne.jp

あさひふれんど千葉

平成28年11月15日

(6)



今年も立冬をすぎたが、房総の海や山は「晩秋」の行楽シーズン。南房へ太平洋の大海原を見に行くことがあった



江戸時代から昭和19年(1944)まで続いた網元の住宅で同市の有形文化財に指定されている。この小谷家に天折の天才画家青木繁が恋人福田たね、友人坂本繁二郎、森田恒友らと逗留したのは明治

秋のお出かけにおすすめ 青木繁ゆかりの小谷家

館山市 神話の浜の高台に

37年(1904)の夏、40日間ほど滞在した。このとき、坂本から聞いた大漁話から着想した名作が「海の幸」である。洋画の重要文化財第1号となった。

阿由戸の浜を見晴す高台に建つ小谷家は、廃業いらしい傷みが激しいことから復元・保存運動が起き、NPO法人青木繁「海の幸」会(大村智理事長)が発足。約7年にわたる地道な資金づくりが実り、修復工事が完了し、今年4月から一般公開されている。

客間書院の欄間の彫刻には、明治時代に活躍した後藤喜三郎と橋義信の刻名がある。風光明媚な景勝地で知られる布良は天宮命(あめのと

神話の浜「阿由戸の浜」。
右から女神山、男神山(上)
小谷家住宅(下)

みのみこと)が上陸したという神話の浜である。

小谷家の近くには鳥居から洋上遙かに富士山を臨む布良神社や安房自然村がある。マイカーでの行楽なら房総半島突端の州崎灯台、県立野島の森、白浜フラワーパークなど見どころが多い。

◇小谷家記念館 毎週土、日曜日の開館(盆、年末年始を除く)10時~16時(4月、9月)10時~15時(3月、2月)◇入場料 一般2000円・小中学生1000円◇同館問い合わせ0470(22)8271◇交通 JR内房線館山駅から白浜行きバス。安房自然村下車。徒歩3分。